

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

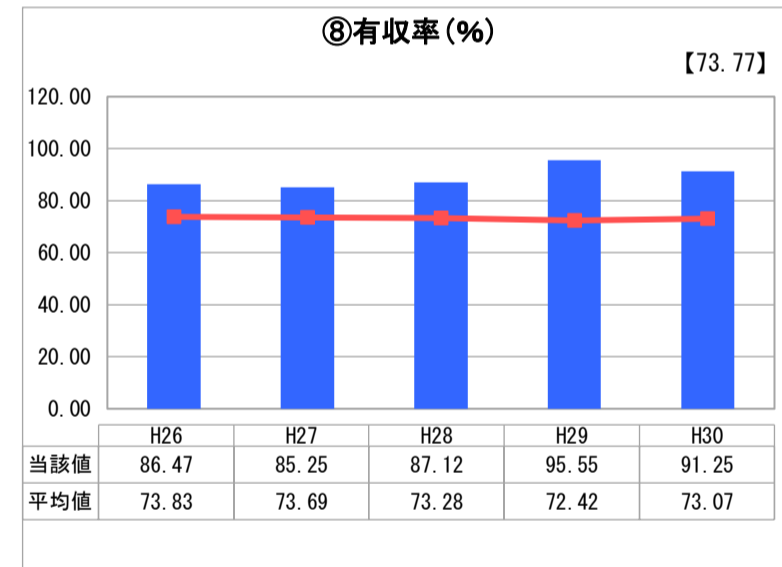
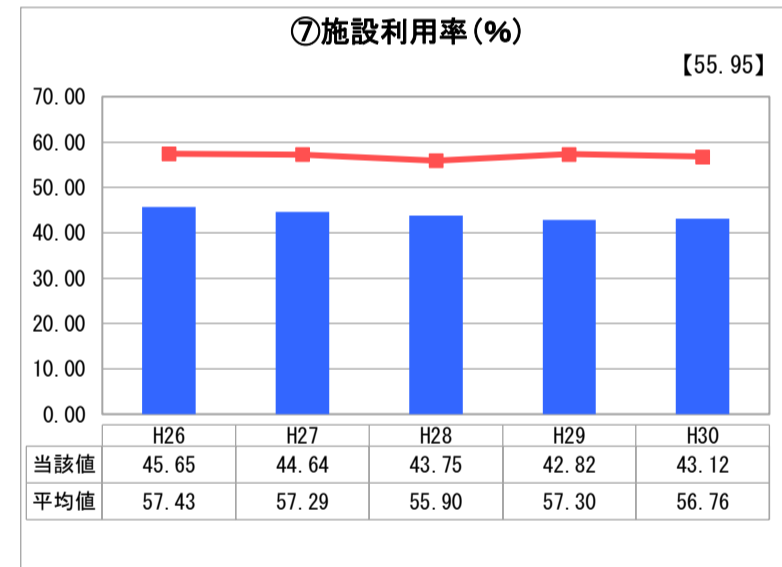
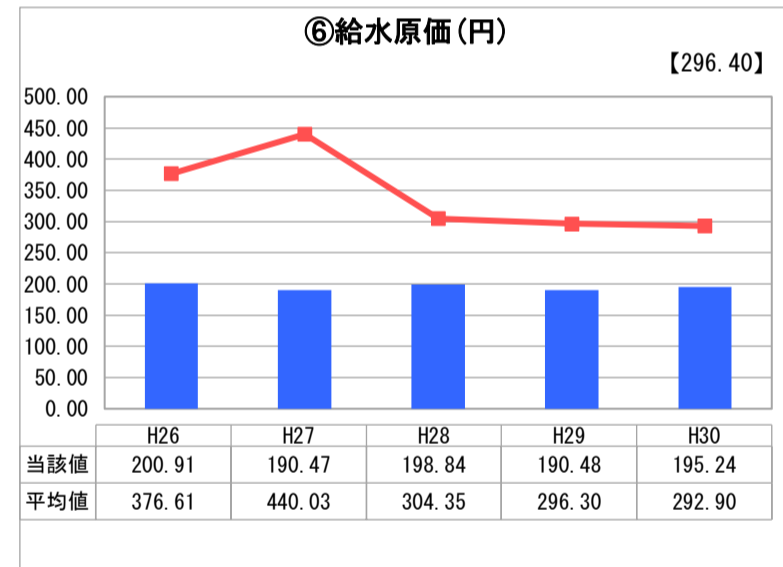
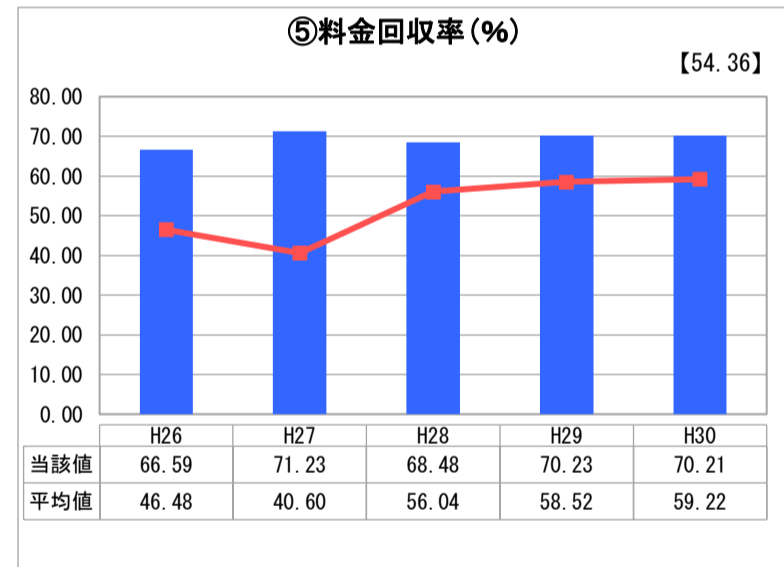
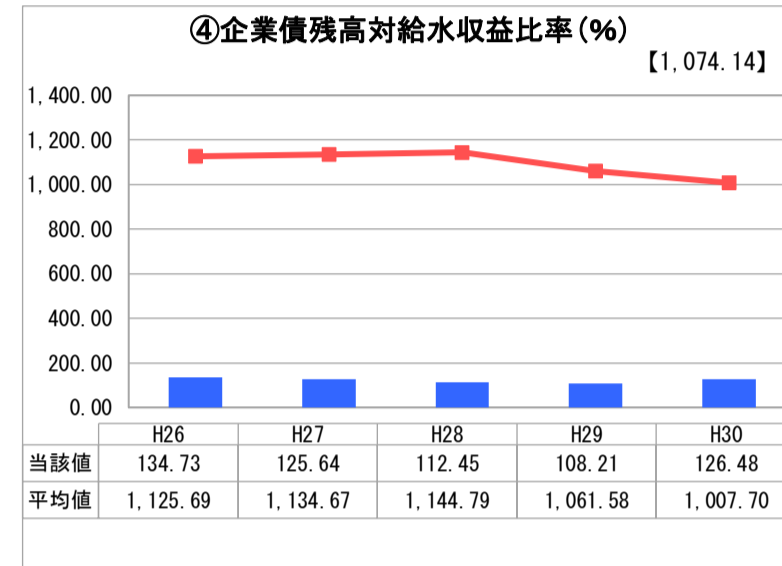
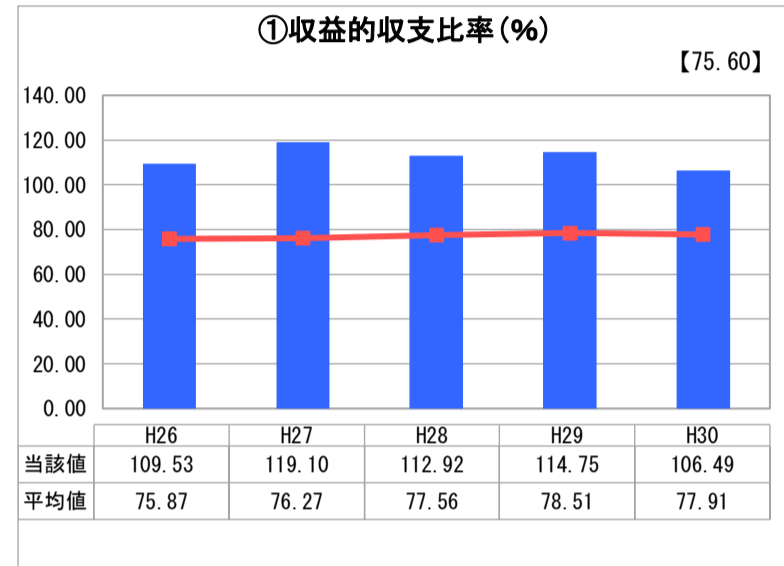
福井県 大野市

業務名 法非適用	業種名 水道事業	事業名 簡易水道事業	類似団体区分 D3	管理者の情報 非設置
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 該当数値なし	普及率(%) 13.68	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円) 2,021	

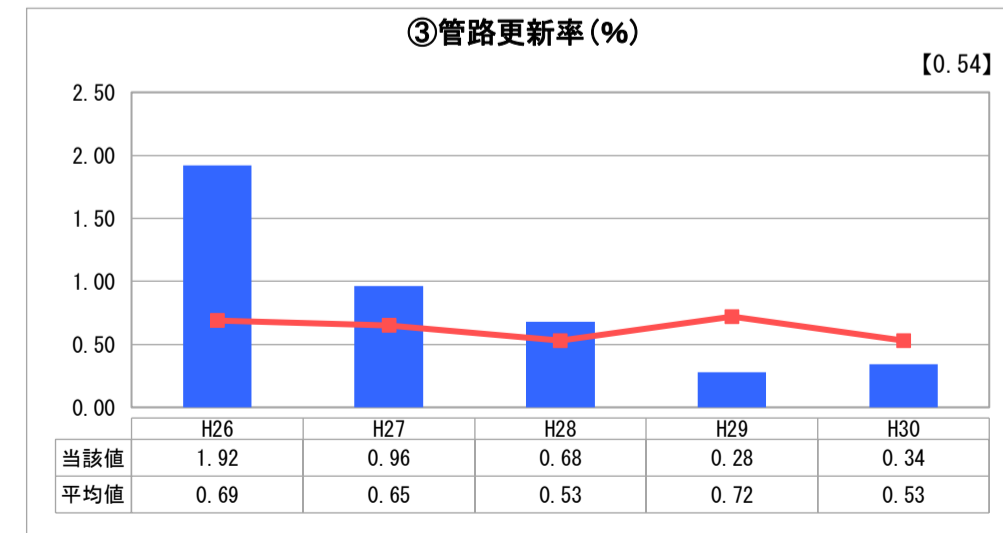
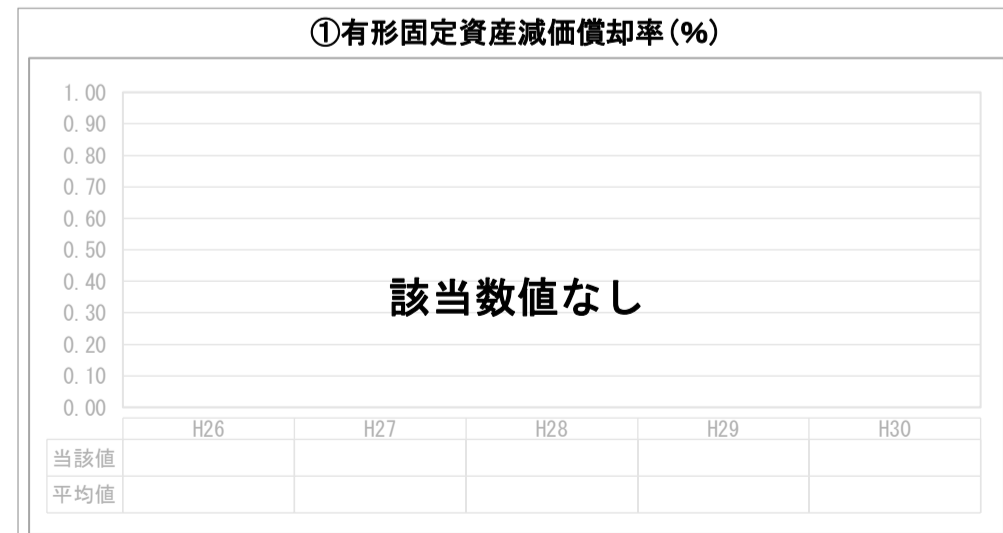
人口(人) 33,519	面積(km <sup>2</sup> ) 872.43	人口密度(人/km <sup>2</sup> ) 38.42
現在給水人口(人) 4,548	給水区域面積(km <sup>2</sup> ) 4.97	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> ) 915.09

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支については、現在赤字で推移している。しかしながら⑤料金回収率は平成29年度と比較して減少しており、今後も減少傾向が予想されることから、一般会計繰入への依存度の高まりについて今後の推移を注視していく必要がある。

事業規模が小さいこともあるが、④企業債残高対給水収益比率は平均の1割強程度となっている。事業の必要性、優先度を見きわめ起債額の圧縮に継続して努めていく。

⑤料金回収率については平均を上回っているが、年間総有収水量の減などにより⑥給水原価は前年度から増加した。給水人口の減少等の要因により今後も増加の傾向が続くと考えられるため、経営の効率化がより不可欠となっていくと予測される。

⑦施設利用率については、給水人口規模が少ないこともあり平均を下回っている。引き続き施設運営の効率化に努める必要がある。

年間総有収水量が増加した前年度と比べて今年度は減少したことにより⑧有収率が減少したが、それ以外ではおおむね安定して推移している。引き続き漏水の把握等により、施設の稼働を収益に結び付けていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

平成27年度に実施した固定資産評価および平成28年度策定の収支計画に基づき老朽化に順次対応している。

管路更新については、少なかった平成29年度に比べて平成30年度は増加しているが平均を下回っている。固定資産評価や収支計画を鑑みダウンサイジング化なども視野に入れ適正な施設規模で施設更新を実施していく必要がある。

## 全体総括

固定資産評価結果を基礎に、施設の更新予定の把握ができています。今後はさらに収支計画も考慮に入れ、計画的で確実な施設更新をしていく必要があります。

経営についても、一般会計繰入の依存度が高まっているため、人口減少や既存設備老朽化といった諸課題に対して、施設の効率的な運営や計画的な更新、事業の統合等で健全経営化を図る必要がある。